

企画事業 「特定の状況にある青少年への支援を行う事業」

事業名	不登校児童生徒対応事業 いきいき自然体験キャンプ
実施期間	平成21年9月29日(火)～10月3日(土)
担当者	企画指導専門職 大城 辰秀



I 事業の趣旨

近年、子供たちの中でのいじめや暴力行為、長期欠席などの問題行動は増加傾向にある。その背景には、子供たちが家庭や学校生活等の中で派生する様々な悩みやストレス等を解決できずに抱え込んでしまい、不登校となる例が増えている。

本事業は、沖縄県適応指導教室連絡協議会、沖縄県教育委員会の共催を得て、心因性の不登校児童生徒を対象に、渡嘉敷島の豊かな自然の中で様々な体験活動を通して、児童生徒一人ひとりが自分の世界を広げ、自己を見つめるきっかけとなり、さらに、社会生活への適応を支援することをねらいとして実施する。本施設の立地条件を活かした自然体験活動やキャンプ宿泊などのプログラムを展開し、渡嘉敷島の自然の持つ治癒力を活かし、子供たちの心を開かせ、人間関係を構築するコミュニケーション能力の育成を図る。



【みんなの力で大型カヌーを漕ごう！】

II 事業の概要

1 事業の目的

心因性の不登校児童生徒を対象に、渡嘉敷島の豊かな自然の中で様々な体験をすることを通して、児童生徒一人ひとりが自分の世界を広げ、自己を見つめるきっかけとする。さらに、社会生活への適応を支援する。

2 参加対象及び募集人員

心因性の不登校児童生徒 50名程度
児童生徒の関係者（適応指導教室職員・保護者）
20名程度

3 参加状況

参加者は、児童生徒37名、適応指導教室職員27名、保護者2名、計66名の参加であった。

沖縄本島内の各市町村の適応指導教室の児童生徒が中心であるが、沖縄本島内の各市町村教育委員会や学校などとも連携を取ったことにより、家族での参加もあった。

4 実施上の留意事項

(1) 運営について

心因性の児童生徒を対象にした事業であることから、適応指導教室の教諭が共に参加する体制を取り、スクールカウンセラーとして経験のある臨床心理士を心理カウンセラーとして配置した。当事業の運営では、参加者相互のコミュニケーションを広げ深める場の設定を段階的に設けた。また、個々の児童生徒の健康や心理状態にあわせて、職員及び関係スタッフの柔軟な対応を心がけた。

(2) 健康管理について

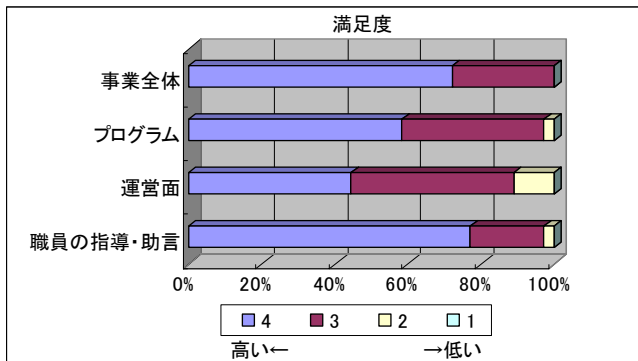
しおりに健康観察票を入れ、毎日朝と晩の2回健康観察を行うとともに、また絶えず引率職員や保護者、看護師、施設職員が児童生徒の状況を確認した。

(3) 安全管理について

海洋研修では、水上バイク2艇による海上監視、専門職による地上監視を配置し、安全体制を施した。参加者の健康面や心理面での状態に配慮して、休憩やクラフト活動のできる場を設けた。また、各プログラムの前には、必ずオリエンテーションを行い、安全に配慮した活動が自主的にできるようにした。

5 アンケート結果

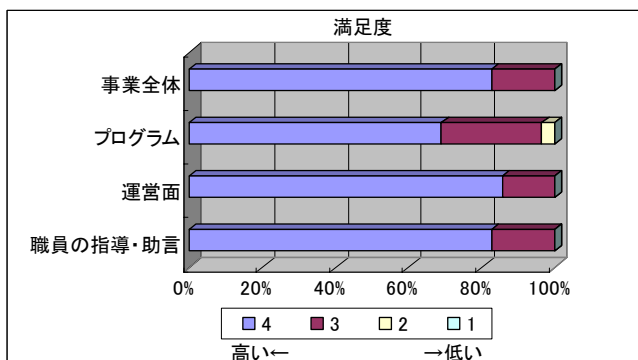
(1) 児童生徒について



アンケートの結果から、「満足」「おおむね満足」を含めると「運営面」以外は、全て 97%以上の満足度となった。参加者の自由記述から、海、山、スポーツなど、いろいろな体験活動ができたことがよかった。また、職員やボランティア、他の学級の人とも仲良くなったことがうれしかったようである。

「運営面」は89%の満足度であるが、低くなった要因は、スケジュールにもっと時間的ゆとりがほしかったようである。

(2) 引率者について



アンケートの結果から、「満足」「おおむね満足」を含めると全て 97%以上の満足度となった。参加者の自由記述から、子供たちの状態に合わせたゆったりとしたプログラムの量、内容であったようである。



【海洋研修：スノーケリング・カヤックに挑戦】

Ⅲ 成果と課題

1 事業の成果

①当初、4泊5日が児童生徒の心理面、体力面で耐えられるか不安ということであったが、ゆとりを持たせたプログラムにしたことやプログラムを選択制にしたことで、児童生徒が主体的に活動できることが多くなった。

②5日間を関係スタッフが連携しながら、段階的にコミュニケーションを深め、広げるプログラムを展開したことで、グループ内外での交流が深まった。

2 今後の課題

個々の児童生徒の実態が異なるため、個に応じたプログラムの工夫が必要である。

Ⅳ その他

1 担当者の感想

心因性の不登校児童生徒を対象にした事業であり、個々の実態が異なることから、プログラムの展開や個々に応じた声かけや指導など、関係スタッフの共通理解と連携が重要になると思った。



【原始的な方法で火おこしに挑戦】



【スポーツレク：五色綱引き】